

## 「静岡文化芸術大学の研究活動15年の成果」資料編 正誤表

頁	箇所	誤	正
158	No.12 目的及び内容1行目	劇場外	劇場街
159	No.26 " 2行目	自身と誇りを	自信と誇りを
160	No.14 " 2行目	役割に着いて	役割について
	No.13 代表者	谷川 真美	谷川 眞美
161	No.25 " "	有園 格	有園 格
162	No.10 " "	谷川 真美	谷川 眞美
163	No.22 研究名	文化園	文化権
164	No.7 目的及び内容1行目	文化を事にする	文化を異にする
	No.3 代表者	谷川 真美	谷川 眞美
165	No.14 目的及び内容2行目	中核拠点(コハアブ)	中核拠点(コアハブ)
	No.15 " 6行目	本学独自の美的完成	本学独自の美的感性
	No.22 " 1行目	中田島砂丘でん開催	中田島砂丘で開催
166	No.30 " 1行目	造形発現	造形表現
	No.4 研究名	多文化化する21世紀の	多文化化する21世紀の
	No.6 目的及び内容1行目	オペラ・ブッフエ	オペラ・ブッファ
168	No.6 代表者	谷川 真美	谷川 眞美
	No.7 " "	佐井 国夫(生産造形学科教授)	佐井 国夫(生産造形学科助教授)
	No.10 " "	福岡 欣治(文化政策学科助教授)	福岡 欣治(文化政策学科講師)
	No.17 " "	西田 かほる(国際文化学科助教授)	西田 かほる(国際文化化学科講師)
169	No.29 " "	生産造形教授	生産造形学科教授
170	No.6 目的及び内容5行目	具定例	具体例
	No.29 代表者	鈴木 晃二郎	鈴木 漉二郎
172	No.32 目的及び内容2行目	公民連携セクターについて	公民連携セクターについて
173	No.4 研究名	狂言とコメディ・デッラルテ：喜劇の祭典	狂言とコメディ・デッラルテ：日伊喜劇の祭典
	No.13 代表者	下楠 昌哉(国際文化化学科教授)	下楠 昌哉(国際文化化学科准教授)
174	No.18 " "	池上 重弘(国際文化化学科教授)	池上 重弘(国際文化化学科准教授)
	No.20 " "	佐野 真由子(芸術文化化学科准教授)	佐野 真由子(芸術文化化学科講師)
177	No.15 目的及び内容4行目	①日本の殖民地	①日本の植民地
	No.16 代表者	中尾 知彦(芸術文化化学科准教授)	中尾 知彦(芸術文化化学科講師)
178	No.32 目的及び内容6行目	平成年度は	平成20年度は
180	No.34 目的及び内容6行目	大学が主催する芸術事業がその大学の研究および教育活動とどのような連携をし、相互の発展に貢献し得るのかという点について研究を行う。 これにより、今後の本学における芸術事業と研究・教育（公開講座等を含む）の連携に向けた示唆を得る。	本学の特徴である芸術文化マネジメント、デザイン学部のアートとサイエンス（技術と感性）の結び付いたメディアアート（文化/芸術/デザインの交流領域）を、将来に向けたSUACの重要な柱の一つとして、引き続き追求する。これまでの特別研究の成果を受けて、日本の将来を担うコンテンツ振興と地域の関連産業との連携の研究を発展させるとともに、秋の「しずおか国民文化祭・文化庁メディア芸術祭in SUAC」をMAF2009の一部として開催し、世界的レベルの作品の展示発表の好機とする。
181	No.3 代表者	川口 宗敏(デザイン研究科教授)	川口 宗敏(空間造形学科教授)
	No.4 目的及び内容3行目	以下のような社会実験と	社会実験と
	No.8 " 2行目	「新しい学習の場」可能性	「新しい学習の場」の可能性
182	No.26 " 4行目	地域とわず	地域をとわず
183	No.5 " 2行目	用事体育	幼児体育
184	No.20 " 2行目	オーディションスピーカーを検証し	オーディションスピーカーで検証し
	No.29 研究名	SPAC(静岡舞台芸術センター)	SPAC(静岡県舞台芸術センター)
	No.29 目的及び内容1行目	SPAC(静岡舞台芸術センター)	SPAC(静岡県舞台芸術センター)
185	No.35 " 1行目	岡田茉莉子三の作品	岡田茉莉子の三作品
	No.1 " 3行目	イメージビール狙う	イメージビールを狙う
186	No.17 研究名	SPAC(静岡舞台芸術センター)15年の活動評価	SPAC(静岡県舞台芸術センター)15年の活動評価
	No.2 目的及び内容4行目	国会の一大危機	国家の一大危機
188	No.3 目的及び内容2行目	他分野の波及力	他分野への波及力
190	No.24 代表者	小浜 朋子	小浜 朋子
192	No.4 目的及び内容4行目	吉野剛三	吉野剛造
	No.10 " 1行目	ブルゼンス	プレゼンス
193	No.13 " 1行目	4年目	5年目
198	2003年度後期5行目	他文化社会	多文化社会
	2003年度後期6行目	他文化社会	多文化社会
	2004年度後期担当講師	徳増 勝巳	徳増 克己
199	2010年度後期 "	孫 江(国際文化化学科准教授)	孫 江(国際文化化学科教授)
200	2011年度 "	岡田 健志	岡田 建志
201	2014年度 "	林 佐和子	林 左和子
202	第9回薪能10月7日講師等	佐藤 典子(芸術文化化学科教授)	佐藤 典子(外部講師)
203	第15回薪能タイトル・演目等	「海士」懐中之舞	「頼政」
205	2004年度8月27日～28日 指導者	田邊 英隆(生産造形学科助教授)	田邊 英隆(生産造形学科教授)
204	2000年度10月19日 公開講座実施推移	銅版	銅板
206	2008年度8月23日 指導者	佐藤 聖徳(メディア造形学科教授)	佐藤 聖徳(メディア造形学科准教授)
	2008年度3月14日 "	佐藤 聖徳(メディア造形学科教授)	佐藤 聖徳(メディア造形学科准教授)
	2009年度8月22日 "	佐藤 聖徳(メディア造形学科教授)	佐藤 聖徳(メディア造形学科准教授)
	2009年度3月14日 "	佐藤 聖徳(メディア造形学科教授)	佐藤 聖徳(メディア造形学科准教授)
208	2002年度講演・監修等	野中 壽治(生産造形学部教授)	野中 壽治(生産造形学部教授)
	2004年度担当研究者	望月 達也(技術造形学科助教授)	望月達也(技術造形学科教授)
210	2005年度 "	望月 達也(技術造形学科助教授)	望月達也(技術造形学科教授)
	2006年度 "	望月 達也(メディア造形学科助教授)	望月達也(メディア造形学科教授)
	2007年度 "	望月 達也(メディア造形学科助教授)	望月達也(メディア造形学科教授)
	2002年度 "	望月 達也(技術造形学科助教授)	望月達也(技術造形学科助教授)
211	2003年度 "	望月 達也(技術造形学科教授)	望月達也(技術造形学科助教授)
	2005年度 "	河原林 敬一郎(生産造形学科教授)	河原林 桂一郎(生産造形学科教授)
213	回数3 2004年学会名称	芸術工芸会	芸術工学会
	回数6 2006年担当教員	谷川 真美	谷川 眞美
	回数19 2010年学会名称	芸術工芸会	芸術工学会